

はんのうししゅわげんご ふきゅうおよ しょうがい とくせい おう たよう い し そつうしゅだん
飯能市手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様な意思疎通手段の
りよう そくしん かん しょうれい
利用の促進に関する条例

しゅわ おんせいげんご こと しゅし からだ うご ひょうじょう つか しかくてき
手話は、音声言語とは異なり、手指や体の動き、表情を使い視覚的に
ひょうげん げんご しゅわ ひつよう ひと ものごと かんが かんじょう あらわ
表現する言語である。手話を必要とする人たちは、物事を考え、感情を表
い し つた たが き も り かい あ ひつよう げんご しゅわ
し、意思を伝え、互いの気持ちを理解し合うために必要な言語として、手話を
たいせつ はぐく なが あいだ しゅわ げんご り かい ひろ
大切に育んできた。しかし、長い間、手話が言語であることの理解は広まっ
てこなかった。

しゅわ ふく しょうがい とくせい おう たよう い し そつうしゅだん えら
また、手話を含む障害の特性に応じた多様な意思疎通手段を選ぶことがで
きないことで、しゅわ ひつよう ひと た しょうがいしゃ にちじょうせいかつまた しゃかい
きないことで、手話を必要とする人その他の障害者は、日常生活又は社会
せいかつ そうどう せいげん う さいがい た ひじょう じたい じょうほう
生活において相当な制限を受け、災害その他非常の事態においても情報の
しゅとく こんなん じょうきょう お
取得が困難な状況に置かれている。

しょうがいしゃきほんほう すべ しょうがいしゃ かのう かぎ げんご しゅわ ふく
障害者基本法は、「全て障害者は、可能な限り、言語（手話を含む。）そ
の他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、
じょうほう しゅとくまた りよう しゅだん せんたく きかい かくほ
情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会の拡大が図られるこ
と」を旨として、すべ こくみん しょうがい う む わ へだ
とを旨として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることな
く、そうご じんかく こせい そんちよう あ きょうせい しゃかい じつげん はか
相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を図ることと
している。

はいけい わたし しゅわ げんご ふきゅう つと
こうした背景から、私たちは、手話が言語であることの普及に努めるとと
もに、しょうがいしゃ しょうがい とくせい おう たよう い し そつうしゅだん ひつよう
もに、障害者にとって障害の特性に応じた多様な意思疎通手段が必要である
ことと、ただ り かい とうがい い し そつうしゅだん りよう
ことを正しく理解し、当該意思疎通手段が利用しやすいものとなるように
かんきょう ととの ひつよう
環境を整えていく必要がある。

わたし しょうがい なん ふ じゅう みずか い し あいて つた
私たちは、障害があっても何ら不自由なく自らの意思を相手に伝え、
そうご い し そつう はか かんきょう すいしん しょうがい う む
相互に意思疎通を図ることができる環境づくりを推進し、障害の有無にかか
わらずだれ あんしん せいかつ ち い ききょうせいしゃかい じつげん じょうれい
誰もが安心して生活できる地域共生社会を実現するため、この条例を
せいいてい
制定する。

もくてき
(目的)

だい じょう じょうれい しゅわげんご ふきゅうおよ しょうがい とくせい おう たよう い し
第1条 この条例は、手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様な意思
そつうしゅだん りよう そくしん かん きほんりねん さだ なら し せきむなら し しみん
疎通手段の利用の促進に関し、基本理念を定め、並びに市の責務並びに市民

およ じぎょうしゃ やくわり あき し すいしん しさく さだ
及び事業者の役割を明らかにするとともに、市の推進する施策を定めること
により、障害の有無にかかわらず誰もが安心して生活できる地域共生社会
じつげん きよ もくてき
の実現に寄与することを目的とする。

(用語の意義)

だい じょう じょうれい つぎ かくごう かか ようご いぎ どうがいかくごう さだ
第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定
めるところによる。

- (1) しょうがいしゃ しんたいしょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい はったつしょうがい ふく
障害者 身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）そ
の他の心身の機能の障害（以下「障害」という。）がある者であつて、
しょうがいおよ しゃかいてきしょうへき しょうがい もの にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ
障害及び社会的障壁（障害がある者にとって日常生活又は社会生活を
いとな うえ しょうへき しゃかい じぶつ せいど かんこう かんねん た
営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他
いっさい けいぞくてき にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ そうとう
一切のものをいう。）により継続的に日常生活又は社会生活に相当な
せいげん う じょうたい
制限を受ける状態にあるものをいう。
- (2) いしそつうしゅだん しゅわ おんやく ようやくひつき ひつだん てんじ しょくしゅわ かくだい
意思疎通手段 手話、音訳、要約筆記、筆談、点字、触手話、拡大
もじ じょうほうしん きき へいい ひょうげん たじょうほう しゅとく およ りよう
文字、情報通信機器、平易な表現その他情報を取得し、及び利用し、
なら いしそつう はか しゅだん
並びに意思疎通を図るための手段をいう。
- (3) しみん しない きょじゅう また きんむ も つうがく もの
市民 市内に居住し、又は勤務し、若しくは通学する者をいう。
- (4) じぎょうしゃ しない じぎょうかつどう おこな こじんまた ほうじん た だんたい
事業者 市内において事業活動を行う個人又は法人その他の団体をい
う。

きほんりねん
(基本理念)

だい じょう しゅわげんご ふきゅうおよ しょうがい とくせい おう たよう いしそつうしゅだん りよう
第3条 手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様な意思疎通手段の利用
そくしん すべ しみん しょうがい うむ わ へだ
の促進は、全ての市民が障害の有無によって分け隔てられることなく、
そうご じんかく こせい そんちょう あ じゅうよう にんしき もと おこな
相互に人格と個性を尊重し合うことが重要であるとの認識の下に行われ
なければならない。

- 2 しゅわげんご ふきゅう しゅわ どくじ げんごたいけい ゆう ぶんかてきしょさん
手話言語の普及は、手話が独自の言語体系を有する文化的所産であるとい
う認識の下に行われなければならない。
- 3 しょうがい とくせい おう たよう いしそつうしゅだん りよう そくしん しょうがいしゃ
障害の特性に応じた多様な意思疎通手段の利用の促進は、障害者が
しょうがい とくせい おう たよう いしそつうしゅだん せんたく きかい かくほ
障害の特性に応じた多様な意思疎通手段を選択する機会が確保されること
を基本として行われなければならない。

し せきむ
(市の責務)

だい じょう し ぜんじょう さだ きほんりねん い か きほんりねん
第4条 市は、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）にのつ
とり しゅわげんご ふきゅうおよ しょうがい とくせい おう たよう いしそつうしゅだん りよう
とり、手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様な意思疎通手段の利用

そくしん かん しさく すいしん
の促進に関する施策を推進するものとする。

しみん やくわり
(市民の役割)

だい じょう しみん きほんりねん たい りかい ふか し すいしん しさく きょうりよく
第5条 市民は、基本理念に対する理解を深め、市が推進する施策に協力
つと
するよう努めるものとする。

じぎょうしゃ やくわり
(事業者の役割)

だい じょう じぎょうしゃ きほんりねん たい りかい ふか し すいしん しさく
第6条 事業者は、基本理念に対する理解を深め、市が推進する施策に
きょうりよく つと
協力するよう努めるものとする。

じぎょうしゃ じぎょうかつどう おこな あ しょうがいしゃ しょうがい とくせい おう
2 事業者は、事業活動を行うに当たり、障害者が障害の特性に応じた
たよう い し そつうしゅだん りよう ごうりてき はいりょ おこな
多様な意思疎通手段を利用するための合理的な配慮を行うものとする。

しさく すいしんとう
(施策の推進等)

だい じょう し しゅわげんご ふきゅうおよ しょうがい とくせい おう たよう い し そつうしゅだん
第7条 市は、手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様な意思疎通手段
りよう そくしん つぎ かか しさく そうごうてき すいしん
の利用を促進するため、次に掲げる施策を総合的に推進するものとする。

(1) 手話が言語であることの普及に関する施策

(2) 障害の特性に応じた多様な意思疎通手段に対する理解の促進に関する
しさく
施策

(3) 障害の特性に応じた多様な意思疎通手段を利用しやすい環境の整備に
かん しょうがい とくせい おう たよう い し そつうしゅだん りよう かんきょう せいび
関する施策

(4) その他市長が必要と認める施策

し さいがい た ひじょう じたい しょうがいしゃ たい じょうほう しゅとくおよ
2 市は、災害その他非常の事態において、障害者に対し、情報の取得及び
りようなら い し そつう しえん ひつよう そ ち こう つと
利用並びに意思疎通の支援に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

いけん ちょうしゅ
(意見の聴取)

だい じょう し ぜんじょうだい こう かか しさく すいしん およ どうじょうだい こう きてい
第8条 市は、前条第1項に掲げる施策を推進し、及び同条第2項に規定
そ ち こう ひつよう みと しょうがいしゃ た かんけい
する措置を講ずるため、必要があると認めるときは、障害者その他の関係
しゃ いけん き
者の意見を聴くものとする。

いにん
(委任)

だい じょう じょうれい しこう かん ひつよう じこう しちょう さだ
第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

ふ そく
附 則

じょうれい こうふ ひ しこう
この条例は、公布の日から施行する。